

「施設入所における発達障害児等への支援の向上を目指して」

研修会開催 (11月19日)

講師 新谷 義和 先生 (おかやま発達障害者支援センター所長)

今年度児童課で取り組んでいる発達障害児支援対策事業として児童重度棟（北棟）と保育室で実践してきた構造化の手法を用いた支援についてスーパーバイズを受けました。

構造化とは、発達障害のある人の特性に合わせてより分かりやすく伝えるための方法。例えば、1日の流れを表で掲示したり、片付けしやすいように棚に写真を貼って示したり、視覚的に分かりやすくする。



(写真：上は北棟ブレイルーム側廊下の掲示、下は保育室内)

研修のポイント

強度行動障害のある人の支援に多く携わられてきた先生は、幼児期から成人期までの間にしっかりと支援体制を組むことの重要性を話されました。スケジュールの明確化や環境整備による分かりやすい支援を提供することで、幼児期から「自分でできた（手伝ってもらっても OK）」という経験を積み重ねることは、成人期の安定した生活の基盤を形成する上で大切なものだと言われました。

研修を通して学んだこと

「子どもたちの様子を見て助言したい」という先生からの提案で学校代休日に開催し、利用者の遊びの場を観察していただいた上で個別の支援について具体的な助言を受けました。支援をしていく上で「利用者が理解できているかどうか」の見極めが大切で、利用者のアセスメントを丁寧にしていく必要があることを改めて認識できました。今回の研修会では、今後の支援の見直しに有効な多くの学びがありました。